

政策整理番号 33

評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	土木部空港対策課	関係部課室	土木部臨空地域整備推進課
------	-----	-------	----------	-------	--------------

政策番号	4-10-1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化
------	--------	-----	-------------------------

施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用
------	---	-----	---------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【政策評価指標達成状況から】課題有
 ・指標名:仙台空港利用者数(国内線,国際線) 達成度 C
 ・(達成状況の背景) 国内線は増加しているが,国際線に対しては外因(疾病やその影響を受けた路線撤退)が強く影響を残している。
 ・(達成度から見た有効性) 仮目標値は達成されないが,平成15年の落ち込み分については回復が見られた。

【政策満足度から】有効
 ・満足度は過去3カ年60点である程度の満足を安定的に得ている。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・SARSや鳥インフルエンザの流行,香港,ホノルル路線の運休があった平成15年度と比較し,国際線の利用者数は増加し,また,16年度に国際線が1路線(台北線)新規就航していることから,一定の施策の有効性が認められる。

【総括】
 ・国内線は微増を続けており,国際線利用者数も平成15年度からの回復を見た。また新規路線の就航もあり,指標値の目標達成には至らなかったが,一定の施策の効果が認められる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	仙台空港国際空港化促進事業	6		
2	主	仙台空港新貨物ターミナル建設等促進事業	7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号,4号

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

【国,市町村,民間団体との役割分担】適切
 ・(国)空港を直接管理,整備している。
 ・(県)国や空港の運営に係る団体等と連携を図り,利用促進策や航空会社へのセールスを展開している。また市町村や民間団体と共に仙台空港の利用促進に努める団体(仙台空港国際化促進協議会)に主体的に参画している。
 ・(市町村)仙台市や空港所在市は仙台空港国際化促進協議会に参画している。
 ・(民間団体)航空会社,空港ビル運営会社,航空貨物取扱会社がそれぞれ利用促進を図っている。また仙台商工会議所等の団体は仙台空港国際化促進協議会に参画している。
 ・本施策に係る事業群は上記役割分担に沿って設定,実施されている。

【施策目的を踏まえた事業か】適切
 ・仙台空港の既存路線の維持,運休路線の再開,新規就航路線の開設等により目的達成のため適切に各種事業を展開している。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切
 ・対象や狙いにより事業は適切に設定されており,重複や矛盾する事業はない。

【社会経済情勢に適応した事業か】課題有
 ・疾病の流行による旅行離れや,これを理由とする路線撤退に有効に作用する事業の設定は非常に困難である。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)概ね適切
 ・かい離度は10と大きくはないが,空港の基本機能である路線数の維持,増強のため引き続き各事業の推進が必要である。

【総括】
 ・社会経済情勢への対応等を具体的にどう施策に反映していくかは困難な課題として残るものの,本施策の事業設定は概ね適切と判断する。

施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用
------	---	-----	---------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】有効
 ・施策満足度は60点で過去3回推移しており、事業群の有効性は確認できる。

【政策評価指標達成状況から】課題有
 ・指標については、大きく減少した15年度と比し回復が認められるものの、完全には回復せず、利用者数としては微増にとどまった。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・利用者の動向に影響を及ぼすSARSや鳥インフルエンザ等の疾病流行時からの一定の回復、新規路線の就航等、一定の有効性が見られる。

【業績指標推移から】課題有
 ・各事業の成果は横ばいか減少となっている。

【成果指標推移から】概ね有効
 ・空港利用者数は前年度より増加しており、外因の無かった平成14年度の水準近くまで回復しており、一定の有効性を示している。
 ・仙台空港新貨物ターミナルは、物流業者が共同で利用できる通関機能等のサービスを一定水準で維持・提供しており、仙台空港が取り扱う貨物量は平成14年度から堅調に増加している。

【総括】
 ・事業の業績指標の伸びが少ない中であっても、施策満足度は一定の満足を得て安定推移しており、事業群の有効性がある程度示された。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【施策満足度 業績指標・成果指標】概ね効率的
 ・施策満足度は過去3回一定の水準を維持しており、業績指標、成果指標との相関において、ある程度の効率性を確認できる。

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】課題有
 ・指標値の推移を見ると、業績指標、成果指標との相関において、一定の効率性は確認できない。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】概ね効率的
 ・SARSや鳥インフルエンザの流行などの外因により国際線2路線が15年度に運休したが、わずか1年後の16年度には新規路線が1路線就航しており、業績指標、成果指標との相関において、ある程度の効率性が確認できる。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね効率的
 ・指標値は横ばいか減少の傾向にあるが、仙台空港国際化促進協議会負担金を除き、事業費はいずれも見直しを図り効率性を高めている。
 ・また、唯一効率性指標が低下した仙台空港国際化促進協議会負担金については、業績指標としているPRイベントの開催の他、一般利用者への配布物や旅行代理店への補助等の事業内容のシフトがあり、必ずしも効率性が悪化したとは言えない。

【総括】
 ・政策指標データは施策の目指す方向に顕著に進んでいるとは言えないものの、満足度は概ね一定程度の満足を維持することができている。また、事業全体の業績指標、成果指標との相関においては、事業費の見直しを図りながらも、国際線の新規路線の就航に至っており、事業群については一定の効率性が確認できる。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

・施策の有効性、事業の設定及び事業群の有効性については概ね適切であるとしたが、事業群の効率性は適切と判断できるとは言いえない状況である。

・政策評価指標の目標値達成を第一の課題とし、引き続き、航空会社、一般旅行者へ働きかける事業の展開とその成果を具体的に図る方法の模索が必要と考える。

政策評価指標分析カード(整理番号1)

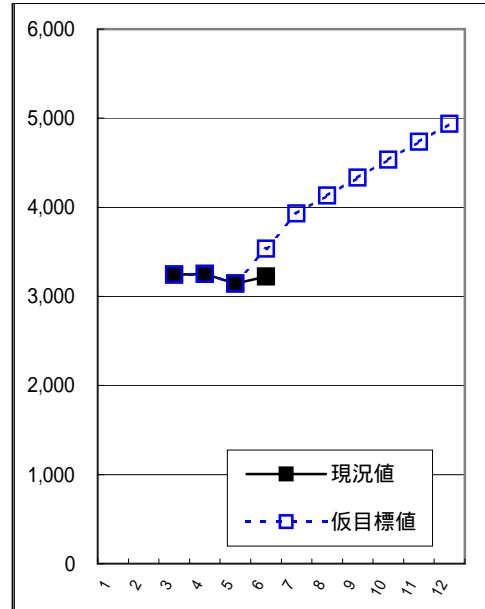
政策整理番号 33

対象年度	H16	作成部課室	土木部臨空地域整備推進課	関係部課室	土木部道路課, 都市計画課, 空港対策課
政策番号	4-10-1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化		
施策番号	2	施策名	仙台空港へのアクセス等周辺施設の整備と活用		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
仙台空港利用者数(国内線, 国際線)		千人						
目標値	難易度	H17	3,930	H22	4,937			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H13	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
現況値 (達成度判定値)	3,246			3,246	3,253	3,144	3,222	
仮目標値				3,246	3,253	3,144	3,537	3,930
達成度							C	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・本県において国内外との交流が活発に行われ, 仙台空港の機能が十分に活用されていることを表す指標として選定した。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位: 点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A		-		80	76	75					
施策満足度 B		-		60	60	60						
かい離 A-B		-		20	16	15						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
達成度: C ・現況値は増加傾向にあるものの, 平成15年度に落ち込んだ国際線利用客が完全には回復せず, 利用者総数としては微増にとどまった。 ・国際線利用客は, SARSや鳥インフルエンザ等の特殊事情に加えて, 香港線・ホノルル線の運休により, 平成15年度に大幅に落ち込んだ。 ・しかしながら, 平成16年度は, これら特殊事情の沈静化及び台北線の新規開設等を背景に, 需要も回復基調にある。 ・したがって, 引き続き空港へのアクセス向上施策を推進するとともに, 既存路線の安定化, 拡充並びに新規路線の開設を進めることにより, 目標値に近づけるよう努める。	判定: ... ・政策評価指標「仙台空港利用者数(国内線, 国際線)」は, 平成16年度時点で目標値は達成していないものの, 増加傾向にある。 ・施策満足度は過去3回にわたり60点と中位にあり, 大きな変化はない。 ・本施策の各事業群は, 現在そのストック形成期にあるため指標の向上に必ずしも効果的と言えないが, 施設完成供用後には長期にわたりその効果が発揮されると考えられる。 相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない, または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】
 ・本施策の各事業群は, 現在そのストック形成期にあるため指標の向上に必ずしも効果的と言えないが, 施設完成供用後には長期にわたりその効果が発揮されると考えられる。
 ・仙台空港利用者数は, 本県において国内外との交流が活発に行われ, 仙台空港の機能が十分に活用されていることを表す指標として選定したものであり, 施策の最終目標として有効であることから存続とする。なお, 事業進捗率を補充指標として, 適切な進行管理を図っていく。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 33

対象年度	H16	作成部課室	土木部空港対策課	関係部課室	
政策番号	4-10-1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化		
施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

<p>【政策評価】 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標(仙台空港利用者数)の目標値を達成するため, 引き続き重点的に実施する必要がある。 ・特に航空機利用者となりうる一般対象者への情報発信については, 仙台空港国際空港化促進事業における仙台空港国際化促進協議会の運営費負担を通じて重点的に充実を図っていくべきである。 <p>【施策評価】 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標値の達成のためには, 国際線休止路線再開及び新規路線の就航が重要であり, これらにつながる航空会社等へのセールス活動を来年は重点的に実施する。 ・航空会社への積極的なセールスの実施に併せ, 同様他空港が取り組む施策についても情報収集し, 事業群をより効率的なものとしていく。 <p>【上記対応により, 当該事業を縮小・中止した場合の影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H18年度)の方向性とその説明

方向性	拡大	維持	縮小	その他
------------	-----------	----	----	-----

<p>【見直しの視点とその理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際情勢の変化やテロなどの発生, 流行性の疾病の発生等, 航空機の利用を阻害する特殊要因が存在する中であって, 国内外と本県を結ぶ拠点としての仙台空港を, いかに安定的に発展させていくかが地方経済産業の発展と国際化にとって重要な課題である。 <p>【次年度の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き仙台空港の利用促進を図り, 政策目標として旅客動向の安定的向上を目指して施策を維持・展開するべきである。 ・特に, 特殊要因に左右されにくい施策の検討, 新規需要の掘り起こしや, 新たな手法による空港PR策の検討による利用促進策への転換を図る。
--

主要事業・重点事業の次年度(H18年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名 [H16決算見込額]	方向性	方向性に関する説明
1	主	仙台空港国際空港化促進事業 [11,503千円]	拡大	新規路線の開設(タイなど)や運休路線の再開(ホノルル, 香港)に取り組むとともに, 既存路線の利用促進を引き続き図っていく。特に, 実施可能で重点的に実施すべき施策として, インターネットポータルサイト等の情報発信の一層の充実, 修学旅行等の利用拡大のための説明会の開催, 外国人の日本旅行拡大等の利用促進策を充実させるための海外での告知(広報)活動などを展開する。
2	主	仙台空港新貨物ターミナル建設等促進事業 [300,000千円]	維持	貨物取扱施設の安定的な運営を確保することにより, 仙台空港への国際航空貨物の集荷を図るため貸付を継続するが, 独立採算の原則に立ち, 将来的には施設の運営動向を注視しながら事業費の縮小を検討する必要がある。
3				
4				
5				
6				
7				
8				